

2021 年度の事業報告書

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人茨城 NPO センター・コモンズ

昨年度も大変お世話になりました。茨城 NPO センター・コモンズは 2018 年に設立 20 周年を迎え、新たに下記のビジョンやミッションなどのもと、活動を進めて参りました。

大切にしたい価値（バリュー）	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット（制度外福祉）の充実 ・ダイバーシティ（多様性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂） ・市民社会 ・ネットワーク型社会 				
目指す社会像（ビジョン）	様々な課題当事者が社会的に包摂され、多様性が尊重され、人や組織がつながり共に行動する市民社会					
2028 年に達成する中期的目標（オブジェクティブ）	<p>県内 5 地域（県北、県央、県南、県西、鹿行）において、以下のセーフティネットを生みだします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが来られる居場所 ・組織連携によるワンストップのよろず相談場所 ・フードバンクによる食のセーフティネット ・ジョブトレーナーによる中間的就労 ・多文化共生地代にふさわしい保育、教育、キャリア支援機関 ・空き家を活用した一時入居できるシェルター ・災害時に対応できる福祉ネットワーク 					
社会的な役割（ミッション）	セーフティネットづくりに取り組む活動を支え、ネットワーク化し、または自ら取り組んで、その芽を育てること、また地域における民間非営利団体の活動基盤の充実を図ること					
事業の柱	対象	上記の市民を支える、地域社会の団体				
	ひきこもりがちな市民	子ども	外国人	被災者	高齢者	障がい者
① セーフティネットのインキュベーション (注1)	グッジョブセンターみとなどによる就労支援	コモンズ・グローバルセンターによる多文化保育や学童保育、学習支援、キャリア支援の実施		たすけあいセンター「JUNTOS」による居場所づくり、移動支援		一般社団法人グローバルセンター・コモンズによる就労支援のモデルづくり
② ネットワーク化	地域を構成する多様な組織の連携の機会づくり	子ども食堂や無料塾のネットワーク化支援	教育機関をつなぐ地域円卓会議の実施	災害時の特殊ニーズに対応するための、福祉団体のネットワーク化	自治体や NPO などによる生活支援体制整備の支援	福祉避難所づくりを通じた障がい者支援団体のネットワーク化
③ 担い手の育成	ジョブトレーナーの育成、親の会やひきこもり支援に関わる団体の運営支援	子ども食堂や無料塾の運営支援	外国人による当事者組織や常総市国際交流協会の設立支援	防災訓練や常総の水害の経験を活かしたワークショップの実施	NPO などへの会計支援	
④ 活動資源の仲介	いばらき未来基金による NPO などへの助成と伴走支援			JUNTOS 募金やホープ募金（いばらき未来基金内の被災者支援活動のための基金）	遺贈寄付の推進	いばらき未来基金による NPO などへの助成と伴走支援

(注1) インキュベーションとは、培養、起業支援を意味します。つまり、まだ地域課題解決の担い手が少ない分野にコモンズが直接関わり、モデル的事业に取り組みますが、その事業を通じて担い手、財源、情報、ネットワークなどの活動資源が充実した段階で、コモンズから分離・独立させ、その後は側面的、間接的にその活動をコモンズがサポートします。コモンズが永続的にその活動を自前でやらないということの意味です。コモンズ設立以来、パソボラ茨城、とらい、茨城福祉移動サービス団体連絡会、フードバンク茨城、ふうあいねっと、グローバルセンター・コモンズなど、インキュベーションによってコモンズが生み出してきたセーフティネットづくりに関わる団体は多くあります。

また、昨年度総会で決定された事業計画では、上記のミッションのため、次の事業方針を掲げました。主な成果は以下のとおりです。

事業部門名		活動方針	主な活動成果	
セーフティネットのインキュベーション事業	常総	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常総市の災害復興支援 ・ 常総市以外の水害被害支援 ・ 生活困窮者や高齢者など生活に課題がある人の支援 	常総市の災害復興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初は、水害により使われていなかった常総市内の製麺所を改修し、年度終盤で PR を行ったことで問い合わせが数件入り、3月に2名の入居しすることができました。 ・ えんがわカフェで週 2 回の営業ではありましたが少しづつ地域の方の集まる場として立ち寄っていただけるようになりました。 ・ 住民参加型の防災訓練に必要な用具が揃い、AED 操作、消火器操作、など訓練メニューもつくることができました。訓練マイ・タイムライン・個別避難計画づくりの研修会により地域でどのように避難していくか、高齢者や障害者をどのように避難させるか再確認することができました。
			常総市以外の水害被災地支援	西日本豪雨（岡山県倉敷市真備町）に続き九州のいくつかの被災地で活動している方々と面識を深めることができた。空き家改修のノウハウをまとめた冊子を作成することができた。
			生活困窮者や生活に課題がある人の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動支援については、公的サービスではできなかった通院や買い物同行ができることや車内での会話が利用者の精神的支援となり利用者が増えている状況です。 ・ 生活支援体制整備事業としての生活支援コーディネーターの役割が月 1 回の会議で少しずつ担当地区に理解していただけるようになりつつあります。 ・ 子ども宅食事業では、1 か月、2 か月が過ぎると利用している世帯の母親や子どもとのコミュニケーションがとれるようになり困っていることなどを自然と話してくれるようになりました。
	外国にルーツのある居住者が、文化的で人間らしい生活を送っていくための環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国ルーツの子どもが、成人するまで適切な教育を受けることのできる環境づくり ・ 外国人住民が、適切な社会保障を受けるところができるための環境づくり 	多文化保育園「はじめのいっぽ保育園」	0-2 歳が認可園として 3 年目を迎え保育事業が徐々に安定してきた。園庭にツリーハウスができたり、畑ができるなど屋外での活動環境を整備することができた。小学校にあがる園児に 2 ヶ月間プレスクールを行うことができた。多文化保育園は雑誌に 2 回掲載されるなど社会の関心を集めた。近隣の保育園から通訳派遣の依頼がくるなど、バイリンガル保育スタッフの意義が徐々に地域に認められるようになった。

事業部門名		活動方針	主な活動成果	
	づくり	<ul style="list-style-type: none"> 外国人住民が、地域の一員として参加し、支え合って生活していくことのできる環境づくり 		た。
			学童保育「はじめのいっぽアカデミア」	昨年度で4年目を迎えました。今年度は新1年生2名を加えた計8名の利用がありました。一昨年に引き続き、水海道二高や伊奈高校の生徒、きぬ看護学校の学生などがボランティアとして児童の勉強を見てくれました。しかし、児童たちが自宅で自主学習ができるようになり出席率が減少したこと、また、コロナウイルスの第6波による感染拡大の防止やスタッフの不足により、1月から休止しています。
			アフタースクール	コロナウイルス感染拡大防止、ボランティアがいないこと、土曜日出勤のスタッフがいないことから、今年度も引き続き未実施となりました。
			プレスクール／プレクラス	<p>新一年生を対象にしたプレスクールについては昨年度は常総で2月下旬から週5回、計2名（うち当会運営の保育園児）、石下は3月から毎週土曜日に3名に対し実施しました。石下クラスは、コモズのスタッフをアドバイザーとして派遣し、下妻の外国人支援自主団体TOMODACHIに委託して実施しました。就学前健診や入学説明会の会場、保育園や幼稚園に出向いて就学就園に関する説明会の案内を配布しました。</p> <p>途中来日の児童生徒のためのプレクラスについては、常総市で事業化されるよう多文化教育ネットワーク会議を他県の関係者も招いて行い提案を行いました。愛知県や大阪市で行われている事例を学んだり視察も行い常総市教育委員会への情報提供に努めました。</p>
			茨城県教育委員会「グローバル・サポート事業」	<p>当事業は3年目となり、さらに県内への周知が進みました。依頼件数も年々増えています。電話・メール相談では、日本語指導についてのみならず、外国人児童生徒・家族への包括的支援が必要な内容も多く、コモズの他事業やネットワークを駆使して解決にあたることができました。高校進学ガイダンスは、8言語各5本ずつの動画を作成し、HPに掲載しています。また、今年度より外国人生徒支援重点校となった石下紫峰高校、結城第一高校でそれぞれ対面実施をすることができました。研修動画も、現場から好評の声をいただいています。</p>

事業部門名		活動方針	主な活動成果
			<p>茨城県内の外国人のためのセーフティーネットワーク構築事業</p> <p>2年間のWAM助成で取組んだ多文化ソーシャルワークを継続するべく隔月でのケース検討会をオンラインで開催。5回の検討会には多様な福祉教育関係者が参加し、横のつながりが深まってきた。常総市から介護通訳養成に関する協力依頼があり、初めて実氏することができた。常総市内の介護施設へのアンケートも実施できた。</p> <p>家なき人と共に暮らし未来を耕すための多文化共同住宅と農園の開設</p> <p>6軒目の空き家再生物件として旧青柳製麺所の店舗兼住宅を5世帯が入居できるシェアハウス「ぼかぼかホーム」に改修することができた。ぼかぼかホームは就労制限があるなど家賃が払えない外国籍住民の入居も想定していたが、実際に3月に牛久入管収容施設に5年も収容されていた人が施設を出た後の住まいとして提供することができた。今はウクライナ避難民の受け入れを常総市と連携して準備している。</p> <p>在住外国人への定住化支援事業</p> <p>「コロナウィルスによる休業補填」「緊急時の110・119番通報」「身内が亡くなった時の流れ」など、昨年度に引き続き7つのテーマの動画を作成し、YoutubeやFacebookで配信しました。また、防災ハンドブックを2種類、7か国語で作成しました。これまで12年間取り組んで来た多文化共生の取組みを冊子にまとめることができた。</p>
水戸	グッジョブセンターみと	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりがちな人たちの居場所となり、相談や仕事の体験を通して、就労などの社会参加を支援します。そのため、引き続き企業・団体の協力を得て、ジョブトレーナーと一緒に就労体験を進めるとともに、新たな体験先の確保に努めます。 市町村などの関係機関などと連携しながら、ひきこもり者の発見(掘り起し)とセンターの周知に努めるとともに、茨城県の「ひきこもり居場所づくり普及推進事業」の受託を目指します。 アパートの入居や更新の時に必要になる「緊急連絡先」がなくて、賃貸契約ができない人のための「緊急連絡サービス」の周知に努めます。 発達障害支援のためのSST(ソーシャル・スキル・ 	<p>2021年度は昨年度に引き続きコロナが猛威を振るい、非常事態宣言やまん延防止等重点措置に合わせて活動を中止することもありましたが、来所できない方には電話相談、コロナ感染が不安で大勢の人がいるところこられない方には、人が少ない日に来所していただき相談を受けるなど工夫をしました。</p> <p>女子会は、新しく、オンライン参加も取り入れて行いましたが、他の事業分野にオンラインが広がるまでには至りませんでした。</p> <p>就労体験につきましては、体験希望者が少なくシフト作成に苦労しており、ボランティアのジョブトレーナーの力と体験の場をご提供いただいているいばらきコープ、東海村社会福祉協議会のご厚情により続いています。その中で、30年以上ひきこもっていた50代の方が、ようやく、外に出て現在就労体験を続けております。また、中学1年の春から不登校でほとんど学校に行かなかった人が、中学卒業後、グッジョブに2年間ほぼ毎週通い、その後高校に入学。学校に通いながらグッジョブにも時々顔を出して下さっていましたが、今春めでたく高校卒業の報告を受け、関係者大喜びしました。このよう</p>

事業部門名		活動方針	主な活動成果				
		<p>トレーニング) 手法によるグループ訓練を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもりがちな方がいる家族の会（てふてふの会）の活動支援に努めます。（2017年10月発足） ・ ひきこもりがちな女子の会（コスモス girls）の活動の支援に努めます。（2019年10月発足） ・ グッジョブ利用者と一緒に運営する、グッジョブ食堂の運営を目指します。 	<p>に、たった一人のかけがえのない人が、社会につながっていることは大きな成果と受け止めております。</p> <p>茨城県社会福祉協議会の助成金で運営が始まったグッジョブおしゃべり食堂は、生きにくさを感じている方の居場所になり、気が付いたら普通に社会参加ができていたらいいなあとと思って月1回の運営を始めました。</p> <p>これまで行ってきた、「経験の困窮」と「関係性の困窮」の解消を目的のひとつとして行ってきた生活訓練プログラムなどが今年も、コロナの影響でできませんでしたが、そうした中でも新しい動きもあり、新しい生活様式ともいえる学びもあったと考えています。</p>				
	茨城県就労準備支援事業及び家計改善支援事業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活困窮者（就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方）のもつ多様で複合的な課題を地域若者サポートステーションで培ったノウハウを活かし解きほぐし、公民を問わずさまざまな支援機関と連携しながら解決していきます。対象となる本人の自己選択、自己決定を基本にしつつ、社会に押し出す、引っ張り出すのではなく、足場を一步一步踏み固めながら、その人のペースで進むことに寄り添い、その人が自分らしく自立した生活がおくれることを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労準備支援事業の支援対象者同士の小集団活動（グループワーク）に於いて、お互いの交流が生まれ、社会生活への不安が軽減され、地域において安心して生活できる環境が整いつつあります。このように孤立状態だった支援対象者が社会とのつながりを持ってた瞬間に立ち会えたことに喜びを感じています。 ・ 家計改善支援事業では、支援対象者の多様かつ複合的な課題（病気、心身の不調、多重債務、滞納、家族の問題など）に対し、親身に寄り添いながら支援した結果、課題解消につながった支援対象者から、「これまでは行政などに相談すること自体嫌だったが、今後は何かあれば相談したい」という言葉が聞け、支援が必要な時にSOSを発信できる力が向上したことを確認することができました。 				
ネットワーク化事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍が長期化する中、生活困窮の市民などを支える地域のセーフティネットの様々な担い手同士をつなぎ、持続可能な地域づくりにつなげます。 	<table border="1"> <tr> <td>子ども食堂支援事業</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の様々な子ども食堂との顔の見える関係性がより強固と、コモンズ分野別ネットワークとしての存在感を高めることができました。NPO 支援センターが積極的に分野別ネットワークを形成することの重要性を全国に示すことができました。 ・ 食品やお金の寄付を着実に仲介することで、コモンズとしての資源仲介実績を重ね、地域活動への市民参加、寄付社会づくりにつなげることができました。 ・ 食を通じた多様な地域の居場所づくりの可能性を県内外に示し、セーフティネットの拡充につなげることができました。 </td> </tr> <tr> <td>NPO マナビヤ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の枠を超えて、子ども食堂同士が学びあうネットワークをつくることができました。 </td> </tr> </table>	子ども食堂支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の様々な子ども食堂との顔の見える関係性がより強固と、コモンズ分野別ネットワークとしての存在感を高めることができました。NPO 支援センターが積極的に分野別ネットワークを形成することの重要性を全国に示すことができました。 ・ 食品やお金の寄付を着実に仲介することで、コモンズとしての資源仲介実績を重ね、地域活動への市民参加、寄付社会づくりにつなげることができました。 ・ 食を通じた多様な地域の居場所づくりの可能性を県内外に示し、セーフティネットの拡充につなげることができました。 	NPO マナビヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の枠を超えて、子ども食堂同士が学びあうネットワークをつくることができました。
子ども食堂支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の様々な子ども食堂との顔の見える関係性がより強固と、コモンズ分野別ネットワークとしての存在感を高めることができました。NPO 支援センターが積極的に分野別ネットワークを形成することの重要性を全国に示すことができました。 ・ 食品やお金の寄付を着実に仲介することで、コモンズとしての資源仲介実績を重ね、地域活動への市民参加、寄付社会づくりにつなげることができました。 ・ 食を通じた多様な地域の居場所づくりの可能性を県内外に示し、セーフティネットの拡充につなげることができました。 						
NPO マナビヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の枠を超えて、子ども食堂同士が学びあうネットワークをつくることができました。 						

事業部門名	活動方針	主な活動成果	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内子ども食堂の好事例を発信し、その価値を伝えることができました。 ・ 労働界、生協関係者も参加し、子ども食堂の意義を再認識いただく機会となりました。 ・ 子ども食堂サポートセンターいばらきを運営するコモンズとしても、各子ども食堂の特徴や苦勞をより深く把握することができました。
		SAVE JAPAN プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段里山に来ることのない子育て世代や、ひきこもりがちな市民が参加し、里山の魅力や保全の意義が広まりました。 ・ 通常のグッジョブセンターみとの室内の居場所活動とは異なり、森林の中で身体を動かしながら親子でコミュニケーションを図る機会となりました。ひきこもりがちな我が子が黙々と作業し、活躍する姿に感動する親の姿を確認することができました。
担い手の育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計サポートなどを通じて、セーフティネットづくりに取り組む担い手の組織基盤強化と信頼性向上につなげます。 	会計サポート事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を支える基盤である会計事務の基礎を個別に伝えることができ、NPO 法人会計基準の普及と、ガバナンス意識の向上につなげることができました。 ・ NPO 法人会計基準に準拠した会計ソフトを多くの団体に販売することで、明朗な決算、情報開示につながりました。
担い手の育成事業		市民活動の総合相談事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ コモンズの有料相談だけではアウトリーチしきれない層に、相談対応を行うことができました。 ・ 相談件数が飛躍的に増加しました。
担い手の育成事業		NPO 法人会計基準協議会事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの市民活動団体に NPO 会計オンライン・セミナーに参加いただき、NPO 法人会計基準の理解を深めることができました。 ・ 会計支援者の新たなつながりが生まれ、気軽に相談し合える関係性の促進につながりました。 ・ 受取寄付金の対価性に関する問題点や今後の方向性が定まりました。
活動資源の仲介事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティネットの維持・拡充を目的とした寄付募集及び助成事業を実施することで、コロナ過で地域のセーフティネットを 	誰かのために募金 ～コロナ禍で生活困難な茨城県民を支える活動を応援～	コロナ禍で生活困難な県民に対し、主に物資配布を中心とした見守り・交流活動を実現、継続しました。

事業部門名	活動方針	主な活動成果	
	支える NPO の存在の可視化と、寄付を通じた市民参加につなげる。	花王・ハートポケット倶楽部地域助成 ～地域の居場所の継続・発信助成～	花王社員も含め、福祉的居場所の価値を発信することにつなげました。
		守谷市内の市民活動助成基金の創設サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助成制度創設過程で中心的な役割を果たすことができました。 ・ 公益活動助成に課題を抱える自治体に対し、一つのモデルケースを生み出すことができました。

部門名	セーフティーネットのインキュベーション部門（たすけあいセンター「JUNTOS」）
2021 年度の活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・常総市の災害復興支援 ・常総市以外の水害被害支援 ・生活困窮者や高齢者など生活に課題がある人の支援

事業名	常総市の災害復興支援
実施内容	<p>(1) 水害による常総での空き家活用やコミュニティ再建として、6 棟目の空き家改修を行った。「ぽかぽかホーム」とした名称のシェアハウスが出来上がり、生活困窮者にかかわる関係機関や外国人支援団体 300 ヶ所へ紹介チラシを発送することができた。</p> <p>(2) 「えんがわカフェ」が地域住民の交流拠点となるよう営業してきた。 毎週（水）・（木）の営業 10 ヶ月で 66 日間営業 約 513 名の方の来店 9 月は茨城県がコロナ感染拡大のため緊急事態宣言により営業休止。 イベントの開催 11 月 14 日 ミニライブ 参加者 23 名 11 月 20 日 第 2 回えんがわマルシェ 参加者 154 名</p> <p>(3) 地元での地区防災計画に基づく避難所開設訓練や防災訓練の継続的な実施については、コロナ禍なかなか集まりを持つことができなかったが市役所主催でもりはしコミュニティ協議会として『防災行動計画ノート』マイ・タイムライン研修会に区長、民生委員、ケアマネ、住民などが参加。4 月 17 日には地区コミュニティセンターで火事や地震に備える防災訓練も始めて行いました。もりはしコミュニティ協議会が自主防災組織として市に登録したり防災備品の準備をすることを支援しました。</p>
得られた成果	<p>(1) 6 年間水害により使われていなかった常総市内の製麺所の店舗住宅を改修し、年度終盤で PR を行ったことで問い合わせが数件入り、3 月に 2 名の入居することができた。</p> <p>(2) えんがわカフェで週 2 回の営業ではありましたが少しずつ地域の方の集まる場として立ち寄っていただけるようになりました。</p> <p>(3) マイ・タイムライン研修会により地域でどのように避難していくか、高齢者や障害者をどのように避難させるか検討を始めることができました。</p> <p>(4) 水戸にあった文庫の本の寄贈がありえんがわハウス母屋 2 階に本を移し児童書の文庫を設けることができた。</p>
今後の課題	<p>(1) 空き家活用やコミュニティ再建を行ってきましたが今後、シェアハウスの入居者を募ることやえんがわハウスの保育以外での有効活用が課題</p> <p>(2) えんがわカフェでは、コロナ感染により営業ができない月もありましたが少しずつ認知度も出てきたところで 2 月よりカフェ運営を任せる人がいないため営業ができない状況、1 日も早い OPEN をさせることが大きな課題です。</p> <p>(3) なかなかできない地元での避難所開設訓練や防災訓練の実施については、コロナ感染予防をしながら継続していくことが課題。</p>

事業名	常総市以外の水害被災地支援
取り組んだ地域の課題や社会的背景	2015 年の常総水害の後も、岡山県倉敷市真備町や九州各地などで豪雨災害が続き県内でも 2019 年の台風で県北地域で水害が発生した。そうした水害被災地に常総の復興の取り組みを伝えていくことと、被災地として防災を普及したり被災者支援制度を改善する取り組みを行う必要がある。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茨城県 DWAT（災害時福祉職派遣）の協定締結団体としての防災研修への参加協力 ・ 県域 NPO センターとして、福祉系 NPO や企業等との災害時連携に関する活動 ・ 2019 年台風 19 号で被災した県北被災地や全国被災地との復興に関する情報交換 ・ 常総水害に関する冊子の送付や報告者の派遣 ・ 空き家改修、活用に関する他地域との情報交換（オンライン）実施 ・ 常総市内の空き家での DIY 改修の実践（ぽかぽかホームづくり） ・ 多言語での防災ガイドと被災した際のガイドの作成
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常総水害からの復興と空き家改修の記録を 2020 年に水害で被災した九州（大分県日田市、熊本県人吉市、佐賀県武雄市など）に届け復興に取り組む方々と面識をもてた。特に武雄市は 2 年連続で水害にあい人口減に直面していたので常総の取り組みを伝えるべく 2 回にわたり訪問した。 ・ DIY 改修の普及については、旧青柳製麺所をシェアハウス「ぽかぽかホーム」に改修するプロセスを記録し冊子を作成し全国の被災者支援団体に送ることができた。
今後の課題	水害が毎年のように各地で発生しているが、被災地同士の交流はコロナ禍で広域交流がしにくい中でなかなか進められないでいる。粘り強く被災地ならではのまちづくりや自主防災のすすめ方について全国の被災地と交流を続けていきたい。

水害被災地でのDIYを取り入れた空き家改修事例集







目 次

どんな水害だったか、まちはどうなったか	2
発災から数日の間に起こったこと	4
水害後、まちでおきた空き家問題	5
事例 1 ジュントスハウス	6
家の改修で気をつけること	11
事例 2 えんがわハイツ	12
事例 3 えんがわハウス	17
事例 4 めんろじハウス	30
DIYで活躍する道具紹介	40
建築基準法に関するポイント	42
常総の事業体制図	46
これまでの常総での取り組みの年表	47
お知らせ	48

私たち常総市は、2015年9月の鬼怒川の洪水で市の3分の1が浸水被害に遭い、家もまちも暮らしも大きな影響を受け、今も地域の復興に取り組んでいます。私たちが水害から立ち上がろうと今日までしてきたことをお伝えしたいと思い、この冊子を作成しました。水害は人口流出と空き家の増大をもたらします。復興のひとつの方法として、こうした空き家をうまく活用して人々が協力して暮らせる場をつくり出すことができます。これまで常総では6つの建物を、DIYも取り入れて改修し、シェアハウス、カフェ、保育園などを地域に作り出してきました。これらの空き家改修の事例が少しでも参考になれば幸いです。

2



部門名	セーフティネットのインキュベーション部門（外国にルーツのある居住者が、文化的で人間らしい生活を送っていくための環境づくり）
2021 年度の活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国ルーツの子どもが、成人するまで適切な教育を受けることのできる環境づくり ・ 当事者が、適切な社会保障を受けることができるための環境づくり ・ 当事者が地域の一員として参加し、支え合って生活していくことのできる環境づくり
取り組んだ地域の課題や社会的背景	長年にわたり社会的に弱者となっている外国人の支援

事業名	多文化保育園「はじめのいっぽ保育園」
実施内容	0 歳から 6 歳までの保育を必要とする乳幼児を預かり、言葉や生活習慣を養う。また、外国ルーツの方が母語を活かせる仕事として保育のキャリアを持てる場をつくる。
得られた成果	0-2 歳が認可園として 3 年目を迎え保育事業が徐々に安定してきた。園庭にツリーハウスができたり、畑ができるなど屋外での活動環境を整備することができた。小学校にあがる園児に 2 ヶ月間プレスクールを行うことができた。多文化保育園は雑誌に 2 回掲載されるなど社会の関心を集めた。近隣の保育園から通訳派遣の依頼がくるなど、バイリンガル保育スタッフの意義が徐々に地域に認められるようになった。
今後の課題	保育士資格を有するスタッフをさらに増やす必要があり、より質の高い保育を行っていききたい。3-5 歳クラスがブラジルの児童に偏っているので日本の児童にも入園してもらえそうな魅力的な園づくりを地域に向けて行っていききたい。

事業名	学童保育「はじめのいっぽアカデミア」
実施内容	近隣の小学校に通う外国ルーツの児童を放課後 18 時まで預かり、宿題の補佐や日本語指導。及び、保護者に対して学校からの連絡事項の説明サポート。
得られた成果	昨年度で 4 年目を迎えました。今年度は新 1 年生 2 名を加えた計 8 名の利用がありました。一昨年に引き続き、水海道二高や伊奈高校の生徒、きぬ看護学校の学生などがボランティアとして児童の勉強を見てくれました。しかし、児童たちが自宅で自主学習ができるようになり出席率が減少したこと、また、コロナウイルスの第 6 波による感染拡大の防止やスタッフの不足により、1 月から休止しています。
今後の課題	利用児童の年齢が上がり、下校時間が遅いため、おやつを食べるだけで帰宅となるケースもあります。また、宿題を終わらせるだけで日本語指導まで行えないことも多く、改めて、現在のニーズと照らし合わせて当事業の目的を明確化する必要があります。また、新年度より、当事業を担うスタッフの確保が困難なため、当面の間休止となります。



▲勉強しているところ



▲えんがわマルシェのポスター制作のお手伝い

事業名	アフタースクール
実施内容	小中学生向け学習支援（毎週土曜日）
得られた成果	コロナウイルス感染拡大防止、ボランティアがいないこと、土曜日出勤のスタッフがいないことから、今年度も引き続き未実施となりました。
今後の課題	休止前は、高校受験塾代わりに利用する生徒がほとんどでした。また、出席率も低迷していました。休止期間中に、16歳以上（いわゆるオーバーエイジ）の日本語教室のニーズが高まってきており、問い合わせも多数あることから、対象者や実施体制等を見直すことを検討します。

事業名	プレスクール/プレクラス
実施内容	未就学児向け小学校就学前指導
得られた成果	<p>新一年生を対象にしたプレスクールについては昨年度は常総で2月下旬から週5回、計2名（うち当会運営の保育園児）、石下は3月から毎週土曜日に3名に対し実施しました。石下クラスは、コモンズのスタッフをアドバイザーとして派遣し、下妻の外国人支援自主団体 TOMODACHI に委託して実施しました。就学前健診や入学説明会の会場、保育園や幼稚園に出向いて就学就園に関する説明会の案内を配布しました。</p> <p>途中来日の児童生徒のためのプレクラスについては、常総市で事業化されるよう多文化教育ネットワーク会議を他県の関係者も招いて行い提案を行いました。愛知県や大阪市で行われている事例を学んだり視察も行い常総市教育委員会への情報提供に努めました。</p> <p>愛知県の多文化子育てサロンを行っている団体のネットワークに参画し情報交換を行うことができました。他県の事例を参考に2回のサロンを行うことができました。特に学籍の保護者の関心の高かった動物とのふれあいで、3月にポニーとふれあうイベントを行ったところ15家族が参加しました。</p>

今後の課題	<p>プレクラスの実業化がまだ達成できておらず、粘り強く提案していく必要があります。スムーズな就学のためには、保護者に必要な情報を届けるガイダンスが重要ですが、その機会をどうつくるかが課題です。</p> <p>えんがわハウスの環境を生かした多文化子育てサロンや屋外活動倶楽部等の定期開催が課題です。</p>
--------------	---

事業名	茨城県教育委員会「グローバル・サポート事業」
実施内容	県内公立学校や教育委員会への通訳派遣・翻訳サポート／日本語指導専門家・日本語指導サポーター派遣／電話・メール相談／高校進学ガイダンスの実施／日本語指導担当教員向け動画の作成
得られた成果	<p>当事業は3年目となり、さらに県内への周知が進みました。依頼件数も年々増えています。電話・メール相談では、日本語指導についてのみならず、外国人児童生徒・家族への包括的支援が必要な内容も多く、コモンズの他事業やネットワークを駆使して解決にあたることができました。高校進学ガイダンスは、8言語各5本ずつの動画を作成し、HPに掲載しています。また、今年度より外国人生徒支援重点校となった石下紫峰高校、結城第一高校でそれぞれ対面実施をすることができました。研修動画も、現場から好評の声をいただいています。</p>
今後の課題	引き続き、外国人児童生徒・家族の包括的な支援にも対応していきたい。アフターコロナによる外国人転入生の増加に備え、通訳・翻訳サポーターの増員や、日本語指導セットの作成など、受け入れ体制の構築を行っていく。ホームページの更なる充実を図るため、現場に求められているコンテンツの制作に力を入れていきたい。



▲グローバルサポート事業のホームページ



▲日本語指導担当教員向け研修動画（HPより）



▲高校を借りて実施した進学ガイダンス



▲水海道夜間中学校へゲスト講師派遣

事業名	茨城県内の外国人のためのセーフティーネットワーク構築事業
実施内容	外国人の様々な困りごとに対し、必要な情報を発信／行政が把握していない外国人コミュニティの発掘、マップ化／当会作成の生活ガイドブックを多言語化、配布／外国人の生活支援体制の整備
得られた成果	2年間のWAM助成で取組んだ多文化ソーシャルワークを継続するべく隔月でのケース検討会をオンラインで開催。5回の検討会には多様な福祉教育関係者が参加し、横のつながりが深まってきた。常総市から介護通訳養成に関する協力依頼があり、初めて実現することができた。常総市内の介護施設へのアンケートも実施できた。
今後の課題	多文化ソーシャルワークをさらに県内に浸透させるには、検討会の継続だけでなく、社会福祉協議会や福祉関係団体と連携した行事の開催や組織づくりも必要。

事業名	家なき人と共に暮らし未来を耕すための多文化共同住宅と農園の開設
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者、サポートを必要とする独居の人に対し、生活の場と農園を提供して共同生活と生産活動を軌道に乗せる。(赤い羽根福祉基金と休眠預金の助成を得て実施) 食や農業を学べる場と作業プログラム作成 えんがわハウスやカフェと連動し、高齢者が昼夜誰かと共に過ごせる環境づくり
得られた成果	6軒目の空き家再生物件として旧青柳製麺所の店舗兼住宅を5世帯が入居できるシェアハウス「ぽかぽかホーム」に改修することができた。ぽかぽかホームは就労制限があるなど家賃が払えない外国籍住民の入居も想定していたが、実際に3月に牛久入管収容施設に5年も収容されていた人が施設を出た後の住まいとして提供することができた。今はウクライナ避難民の受け入れを常総市と連携して準備している。
今後の課題	就労もできず、在留資格の制約のために生活保護も受けられない人の住居費、生活費、医療費をどうするかが大きな課題。入管施設内の処遇にも課題があるが、仮放免状態で地域で暮らしている人の生活や医療を支える仕組みづくりや、日本のゆがんだ入管制度を正していくことも課題。

事業名	在住外国人への定住化支援事業
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーター養成講座の実施とサポーターのチーム作り ・外国人雇用事業所などと連携した生活ガイダンスの実施 ・ピアサポーターによる、日本で生活していく上で重要なテーマを扱った動画配信 ・外国籍住民が参画する地域防災訓練の実施、多言語の防災資料作成 ・県内外国籍住民当事者組織リストの作成と多言語支援情報の共有
得られた成果	<p>「コロナウイルスによる休業補填」「緊急時の 110・119 番通報」「身内が亡くなった時の流れ」など、昨年度に引き続き 7 つのテーマの動画を作成し、Youtube や Facebook で配信しました。また、防災ハンドブックを 2 種類、7 か国語で作成しました。</p> <p>これまで 12 年間取り組んで来た多文化共生の取組みを冊子にまとめることができた。</p>
今後の課題	<p>多様な言語のピアサポーターを養成し横のつながりを作りつつ自治体や企業に働きかけて必要な情報提供や通訳保障がなされる環境づくりをすすめていきたい。</p>

部門名	セーフティネットのインキュベーション部門								
事業名	グッジョブセンターみと								
2021年度の活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりがちな人たちの居場所となり、相談や仕事の体験を通して、就労などの社会参加を支援します。そのため、引き続き企業・団体の協力を得て、ジョブトレーナーと一緒に就労体験を進めるとともに、新たな体験先の確保に努めます。 ・市町村などの関係機関などと連携しながら、ひきこもり者の発見（掘り起し）とセンターの周知に努めるとともに、茨城県の「ひきこもり居場所づくり普及推進事業」の受託を目指します。 ・アパートの入居や更新の時に必要になる「緊急連絡先」がなくて、賃貸契約ができない人のための「緊急連絡サービス」の周知に努めます。 ・発達障害支援のためのSST手法によるグループ訓練、ひきこもりがちな方がいる家族の会(てふてふの会)の活動支援、ひきこもりがちな女子会(コスモス girls)の活動支援、グッジョブ利用者と一緒に運営するグッジョブ食堂の運営を目指します。 								
取り組んだ地域の課題や社会的背景	<p>仕事のブランクや経験不足などによる不安から、すぐに働くことが困難と思っているニートやひきこもりがちな若者が、地域の中に多数いると思われます。しかしこれまで、ニートやひきこもりは本人や家族の問題として、十分な支援制度がありませんでした。グッジョブセンターみとは、居場所や就労体験の場として、就労困難な若者を地域の働き手に変えるための事業のほか、生きにくさを感じている人のSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）によるグループ訓練、ひきこもり者を抱える家族会、生きにくさを感じている女子会、不登校、ひきこもり、発達障害など生きにくさを抱えている方の社会参加を目指したグッジョブおしゃべり食堂の運営に取り組みました。すべての事業においてコロナ禍でお休みをすることもありましたが、感染対策を十分とりながらの運営に努めました。</p>								
実施内容	<p>① 居場所・たまり場： 大工町事務所の共用スペースにおいて、毎週水曜日 9:00～17:00 に開設しました。</p> <p>② 就労体験 印刷作業と荷積み作業（いばらきコープ）、清掃業務（東海村社会福祉協議会）を受託し、ジョブトレーナーと一緒に就労体験を行いました。</p> <p style="text-align: center;">【グッジョブセンターみと利用状況】</p> <p style="text-align: center;">(人)</p> <table border="1" data-bbox="359 1803 1348 1971"> <thead> <tr> <th colspan="2">グッジョブ来所者 (うち新規相談者)</th> <th>就労体験者</th> <th>就職者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,060</td> <td>36</td> <td>1,712</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	グッジョブ来所者 (うち新規相談者)		就労体験者	就職者	1,060	36	1,712	10
グッジョブ来所者 (うち新規相談者)		就労体験者	就職者						
1,060	36	1,712	10						

- ③ 自主事業 ひきこもりの親の会「てふてふの会」・ひきこもり女子会「コスモス girls」・生きにくさを感じている方の支援プログラム「SST」・パステル・グッジョブおしゃべり食堂、東海村出張相談・笠間出張相談・ジョブトレーナ会議など行いました。

【自主事業の利用状況】

(人)

てふてふの会	女子会（リモート）	SST	パステル
64	77（8）	115	14
グッジョブおしゃべり食堂	東海村社協	笠間社協	会議
153（大人 111・子ども 42）	20	8	15

- ④ 茨城県から「ひきこもり者の居場所づくり推進事業」を受託し、水戸市及び土浦市において研修会を実施しました。

【ひきこもり者の居場所づくり推進事業参加者数】

(人)

1/18 水戸 (みと交流プラザ)	1/25 土浦 (亀城プラザ)	2/17 (コモンズ)
48 (32)	30 (25)	66 (61)

※参加者のカッコ内はオンライン視聴者数（内数）。

- ⑤ 茨城県社会福祉協議会「茨城県ボランティア・市民活動推進事業費助成金」を受け、2021年7月に不登校、ひきこもり、発達障害など生きにくさを抱えている方の社会参加を目指したグッジョブおしゃべり食堂の運営を開始。コロナ過でお休みをすることもありましたが、参加者総数 153 名（大人 111 名・子ども 42 名）スタッフ打合わせは 14 回行いました。
- ⑥ アパートの契約時、及び更新する時の緊急連絡先がない人の支援として、2019 年度から開始した事業です。2 名の方の連絡先になっております。

得られた
成果

2021 年度は昨年度に引き続きコロナが猛威を振るい、非常事態宣言やまん延防止等重点措置に合わせて活動を中止することもありましたが、来所できない方には電話相談、コロナ感染が不安で大勢の人がいるところこられない方には、人が少ない日に来所していただき相談を受けるなど工夫をしました。

女子会は、新しく、オンライン参加も取り入れて行いましたが、他の事業分野にオンラインが広がるまでには至りませんでした。

就労体験につきましては、体験希望者が少なくシフト作成に苦労しており、ボランティ

	<p>アのジョブトレーナーの力と体験の場をご提供いただいているいばらきコープ、東海村社会福祉協議会のご厚情により続いています。その中で、30年以上ひきこもっていた50代の方が、ようやく、外に出て現在就労体験を続けております。また、中学1年の春から不登校でほとんど学校に行かなかった人が、中学卒業後、グッジョブに2年間ほぼ毎週通い、その後高校に入学。学校に通いながらグッジョブにも時々顔を出して下さっていましたが、今春めでたく高校卒業の報告を受け、関係者大喜びしました。このように、たった一人のかけがえのない人が、社会につながっていることは大きな成果と受け止めております。</p> <p>茨城県社会福祉協議会の助成金で運営が始まったグッジョブおしゃべり食堂は、生きにくさを感じている方の居場所になり、気が付いたら普通に社会参加ができていたらいいなあと思って月1回の運営を始めました。</p> <p>これまで行ってきた、「経験の困窮」と「関係性の困窮」の解消を目的のひとつとして行ってきた生活訓練プログラムなどが今年も、コロナの影響でできませんでしたが、そうした中でも新しい動きもあり、新しい生活様式ともいえる学びもあったと考えています。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>コロナ過に対する不安があることも原因と思っていますが、グッジョブに来る方が減少している感じがします。まず、ひきこもりがちな方にグッジョブの情報を届けることが求められていると思います。</p>



生協倉庫での荷積み作業を通じた就労体験



公的施設での清掃作業を通じた就労体験



こども対象のソーシャルスキル・トレーニング



グッジョブおしゃべり食堂

部門名	セーフティネットのインキュベーション部門
事業名	茨城県就労準備支援事業及び家計改善支援事業等
2021年度の活動方針	生活困窮者（就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方）のもつ多様で複合的な課題をこれまで培ったノウハウを活かし解きほぐし、公民を問わずさまざまな支援機関と連携しながら解決していきます。対象となる本人の自己選択、自己決定を基本にしつつ、社会に押し出す、引っ張り出すのではなく、足場を一步一步踏み固めながら、その人のペースで進むことに寄り添い、その人が自分らしく自立した生活がおくれることを目指します。
取り組んだ地域の課題や社会的背景	【生活困窮者支援を通じた地域づくり】 これまで制度の狭間で必要な支援が受けられず孤立状態にあった方の掘り起こしを重視すべく、「待ちの姿勢」ではなく、早期に生活困窮者を発見し、課題がより深刻化する前に問題解決を図れるよう自立相談支援機関や行政に対し積極的なアプローチを行い、地域の中で安心して自立した生活をおくることができるよう、本事業の支援を通して地域において支え合いの輪を広げていきます。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 2019年度から茨城県就労準備支援事業及び家計改善支援事業等を受託、支援対象者の多様かつ複合的な課題（就労、心身の不調、家計、家族の問題など）に対し、さまざまな支援機関と連携しながら柔軟に対応しました。 ② 2020年度以降、協定市部も加わり更に対象地域（12町村部+13市部 計25市町村部）が拡大されました。 ③ 支援員の専門性を生かし多角的な視点から、支援対象者に対するアセスメントを行い、本人の状態像に応じたオーダーメイド型のプログラムを実施しました。 ③ 自立相談支援機関を中心に地域の社会資源と連携しながら、支援対象者に対し包括的な支援を実施しました。
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労準備支援事業の支援対象者同士の小集団活動（グループワーク）に於いて、お互いの交流が生まれ、社会生活への不安が軽減され、地域において安心して生活できる環境が整いつつあります。このように孤立状態だった支援対象者が社会とのつながりを持てた瞬間に立ち会えたことに喜びを感じています。 ・ 家計改善支援事業では、支援対象者の多様かつ複合的な課題（病気、心身の不調、多重債務、滞納、家族の問題など）に対し、親身に寄り添いながら支援した結果、課題解消につながった支援対象者から、「これまでは行政などに相談すること自体嫌だったが、今後は何かあれば相談したい」という言葉が聞け、支援が必要な時にSOSを発信できる力が向上したことを確認することができました。
今後の課題	本事業の支援対象者は社会とのつながりが希薄で孤立状態の方が多くいます。こうした支援対象者に対し、地域での活動の場をご提供いただき、当団体が地域の社会資源とつながり、協力を得ながら課題解決に向けた連携が取れればと考えています。そして、支援対象者にとって、一つでも多くの居場所ができることを願っています。



就労訓練事業所での職場見学の模様

就労訓練事業所や就労体験先に於いて、すぐには就労が困難な方に対し、職場見学や作業を体験(数日程度)させていただくことで、職場の雰囲気を体験し、社会とのつながりや自立への意欲を高めて行きます。



小集団活動プログラム「すごろくトーク」の実施風景

他者との関係性を構築する際に必要なコミュニケーションを学びます。さまざまなテーマを通じて、参加者同士会話を楽しみながら相互理解を深めるプログラムです。

部門名	ネットワーク化部門		
2021年度の活動方針	コロナ禍が長期化する中、生活困窮の市民などを支える地域のセーフティネットの様々な担い手同士をつなぎ、持続可能な地域づくりにつなげます。		
事業名	子ども食堂支援事業	NPO マナビヤ	SAVE JAPAN プロジェクト
取り組んだ地域の課題や社会的背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期化するコロナ禍で、テイクアウト形式の子ども食堂、フードパントリーや宅食など新たな活動に取り組み、居場所を継続させている子ども食堂と、そうでないところがあります。 ・ 2022年2月現在で茨城県内に122にまで子ども食堂が増加しました。急増した新たな市民活動の担い手に対する運営サポートのニーズがあります。 ・ コロナ禍でも子ども食堂を新たに始めたいという市民、コロナ禍だからこそ子ども食堂をサポートしたいという市民や団体のニーズは少なくありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の長期化で、新たに生活困窮となった市民も含め、対応する地域の各福祉的相談機関が官民連携する必要があります。 ・ 昨年度作成した『リンク ～茨城のセーフティネットづくりに関わる団体ブックレット～』の活用を促す必要があります。 ・ 本事業の助成元である労働界として、子ども食堂のようなより共感しやすい市民活動への貢献を求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性保全をテーマに、損保ジャパンの寄付を原資として、全国各地で同プロジェクトが実施され、コモンズも各4年ほど実施しました。 ・ 希少種など育む生態系が存在する里山及びその近隣では、過疎化、少子高齢化がさらに進行し、里山を維持・活用する担い手が減少し、放置林が増加、結果として生物多様性の維持が困難となっています。 ・ 遠くなり過ぎた人と里山の関係性をつなぎ合わせる継続した営みが必要です。 ・ コロナ禍が深刻化、長期化する中、自然の中で五感を使った様々な体験が必要な幼少期の児童にとって、そのような豊かな体験が不足しがちとなり、他者との関係性構築にも悪影響が生まれています。 ・ グッジョブセンターみとを利用するひきこもりがちな市民は、このような自然の中での体験、経験が不足しがちと思われます。自然体験は、困難を乗り越える経験や自己肯定感、自己有用感の蓄積にもつながります。
実施内容	<p>茨城県より3年目の子ども食堂応援事業を受託し、子ども食堂サポートセンターいばらきとして以下の事業を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子ども食堂応援事業運営会議を3回開催し、各地の子ども食堂リーダー同士がつながり、子ども食堂へのサポートの在り方を協議しました。 ② モデル的子ども食堂を約10か所現地調査し、訪問レポートの発信を発信しました。 ③ 特設サイトを通じて、子ども食堂などの設立、運営、支援に関する情報を網羅し、継続的に発信しました。茨城の子ども食堂が申請できる助成金に限りデータベースを作成し、毎月メーリング・リストで発信しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内外の子ども食堂がつながり、活動事例を掘り下げながら、新たな活動のヒントと方向性を得る学びあいの機会「子ども食堂セミナー」を以下のように開催しました。 ・ オンライン会議システムを活用し、全国の子ども食堂ネットワークを通じても広報したことにより、全国各地から子ども食堂 	<p>NPO 環～WA、森っこと連携し、以下の3つの行事を企画しました。(第2、3弾は2022年に実施)</p> <p>第1弾：「風の丘の森林整備体験 ～人といきものを育む林を育てよう～」 2021年10月実施、下草刈りや枝払い</p> <p>第2弾：「里山の恵み『筍掘り』を楽しむ ～竹の浸食から針葉樹林を守ろう～」</p>

	<p>④ 子ども食堂に関する総合相談窓口を設け、オンライン会議システムを通じた対応も含め、124 件の相談に対応しました。(のべ数ではなく実数) 設立、NPO 法人化、運営相談、衛生管理、助成金申請、会計、寄付、食品寄贈、ボランティア参加、研修依頼、団体紹介、広報依頼、特定の子ども食堂へのクレーム、取材など、相談内容は多岐に渡ります。</p> <p>⑤ 子ども食堂スタートセミナーを県央、県南で開催し、70 名以上の参加がありました。セミナー受講者が新たに子ども食堂を開設する動きも確認できています。</p> <p>⑥ 県北地域子ども食堂ネットワーク会合を初開催し、活動の悩みやコツを共有しました。</p> <p>⑦ いばらき子ども食堂ネットワーク大会を開催し、福祉的課題を抱える子供や世帯への対応方法を学ぶ機会を設けました。また各地の子ども食堂がつながる交流の機会となりました。</p> <p>⑧ 企業や農業関係者などに子ども食堂などに対する食品寄贈依頼を行いました。37 件の食品寄贈を調整し、(のべ 291 団体への寄贈)</p> <p>⑨ 子ども食堂の広報をサポートのプロボノ募集要項を作成しました。</p> <p>また、独自事業として、以下を実施しました。</p> <p>① 全国こども食堂支援センター・むすびえの支援のもと、県内子ども食堂の活動実態の調査と、全国各地の子ども食堂ネットワークとの意見交換を毎月行いました。</p> <p>② いばらき子ども食堂応援募金を継続実施し、約 65 万円集め、3 団体に計 60 万円助成しました。</p> <p>③ ジブラルタ生命保険より約 94 万円ものご寄付をいただき、上記助成事業運営などに活用しました。</p> <p>④ 県西生涯学習センター、行方市社協、水戸市青少年育成推進会議企業、子ども食堂サポートセンター・とちぎなどから講演依頼を受け、県内子ども食堂の活動事例や連携方法を発信しました。</p> <p>⑤ 農林水産省補助金に申請し、補助金を原資に JA から食肉を購入し、約 20 の子ども食堂に寄贈しました。</p> <p>⑥ 若手生姜農家と連携し、グッジョブおしゃべり食堂の利用者が生姜を収穫し、その生姜を県内子ども食堂に寄贈することができました。</p>	<p>関係者が参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例提供者として、茨城を代表するような、それぞれ特色のある活動を行う 5 団体に発表してもらいました。 ・当日の講演動画を公開し、常時閲覧できるようにしました。 <p>第 1 回：「民家を活かした子ども食堂、無料塾、フード パントリー」 NPO 法人 きらきらスペース 理事長 諏訪 浩子</p> <p>第 2 回：「人・地域・未来をつくる子ども食堂」 NPO 法人 あっとホームたかまつ 理事長 根本 幸子</p> <p>第 3 回：「食を通じた外国ルーツの子ども支援」 しもつま外国人支援ネットワーク TOMODACHI 代表 小笠原 紀子</p> <p>第 4 回：「多様な人や組織との連携事例」 ami seed 代表 清水直美</p> <p>第 5 回：「必要な人や世帯に支援を届ける方法、子どもの SOS を見つける方法、学校や行政との連携方法、支援事例など」 認定 NPO 法 NGO 未来の子どもネットワーク 代表理事 笠井 広子</p>	<p>2022 年 4 月実施</p> <p>家族向け・大人向けプログラム「この木なんの木クイズ& 樹木札づくりと里山観察ツアー」 2022 年 5 月実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ この事業実施に合わせ、フィールドとなる竹林を重機で整備しました。 ※ 各回とも、NPO 環～WA が運営する里山キャンプ場に併設された里山カフェでの昼食を、希望者に提供しました。(里山の食が、多くの参加者を行事にひきつけています) ※ 各回の画像、動画記録をもとに、動画を編集し、その魅力を SNS などを通じて発信予定です。 <p>対象：一般参加者の他、子育て世代、またグッジョブセンターみとの利用者やその家族など、普段里山に触れることのない層</p>
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の様々な子ども食堂との顔の見える関係性がより強固と、コモンスの分野別ネットワークとしての存在感を高めることができました。NPO 支援センターが積極的に分野別ネットワークを形成することの重要性を全国に示すことができました。 ・ 食品やお金の寄付を着実に仲介することで、コ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の枠を超えて、子ども食堂同士が学びあうネットワークをつくることができました。 ・ 県内子ども食堂の好事例を発信し、その価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段里山に来ることのない子育て世代や、ひきこもりがちな市民が参加し、里山の魅力や保全の意義が広まりました。 ・ 通常のグッジョブセンターみとの室内の居場所活動と

	<p>モンズとしての資源仲介実績を重ね、地域活動への市民参加、寄付社会づくりにつなげることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食を通じた多様な地域の居場所づくりの可能性を県内外に示し、セーフティネットの拡充につなげることができました。 	<p>値を伝えることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働界、生協関係者も参加し、子ども食堂の意義を再認識いただく機会となりました。 子ども食堂サポートセンターいばらきを運営するコモنزとしても、各子ども食堂の特徴や苦勞をより深く把握することができました。 	<p>は異なり、森林の中で身体を動かしながら親子でコミュニケーションを図る機会となりました。ひきこもりがちな我が子が黙々と作業し、活躍する姿に感動する親の姿を確認することができました。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>その共感のしやすさから、子ども食堂は他の活動分野にも増して、食やお金の寄付など多くの地域資源が集まります。また子ども食堂の急増により、支援ニーズも増加しています。</p> <p>コモنزの中間支援組織としての存在意義を十分示すことができ、またミッションの達成にも貢献しているという、担当者としての実感、やりがいもあります。</p> <p>一方で、拡大の一途を辿る業務量の中、限られた人員で、他の事業とのバランスに配慮しながら、無理なく事業を実施することが課題です。</p>	<p>オンライン時代に合わせ、あまり長尺のセミナーではなく、1時間程度で一つの活動事例をじっくり掘り下げるこの取り組みの有効性を確認しました。単年度の取り組みとすることなく、無理なく継続することが望まれます。</p>	<p>無理なく残り2回を実施し、その成果を動画メディアなどを通じて発信すること。</p>



いばらき子ども食堂ネットワーク大会

たくさんの人にふれてもらえた子だと思います。
親が穏やかになると子どもが笑顔に

「食べられない子どもたちをなくしたい」
その思いは、さらに強くなり
「寂しい子どもとその親を包み込んであげたい」
新型コロナウイルス感染拡大後、私たちの暮らしは一変しました。
『まる花子ども食堂』と『きらきら子ども食堂』設け、受け入れをかえました。
食の提供と学習の『自習室・一步』『自習室はなみずき』を
子ども食堂が緊急事態宣言で出来ない時は
「テイクアウト」「宅食」「フードパントリー」に
どうしたら、子どもたちに心温まる励ましの食を届けられるのでしょうか。

これからも、きらきらスペース一同は子どもの笑顔を希望に活動してまいります。

子ども食堂セミナー



森林整備体験



森林整備体験

部門名	担い手の育成部門		
2021年度の活動方針	会計サポートなどを通じて、セーフティネットづくりに取り組む担い手の組織基盤強化と信頼性向上につなげます。		
事業名	会計サポート事業	市民活動の総合相談事業	NPO 法人会計基準協議会事務局運営
取り組んだ地域の課題や社会的背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO の会計力を向上させ、運営の透明性、市民の信頼を高めるには、実際に帳簿などを見ながら個別の伴走サポートを拡充する必要があります。 ・ 市民活動の成果の発信、評価が問われている中、現在は社会から期待されるアカウントビリティのレベルに十分達しているとは言えない状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内 NPO 法人数も 876 と右肩上がりが続いており、非営利法人設立の相談ニーズは衰えていない。 ・ コモنزの相談料は、団体新設を検討している市民には決して安いとは言えない。 	NPO のガバナンス強化、アカウントビリティ向上、また市民による活動参加推進のためにも、NPO 法人会計基準をさらに普及させる必要があります。
実施内容	<p>以下の 13 団体に対し、NPO 法人会計基準に準拠した会計ソフトや給与計算ソフトの導入サポート、仕訳入力の確認、決算作成支援、会計業務に関するよろず相談対応などの伴走型会計サポートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者就労支援団体×3 ・ 障がい者生活支援団体 ・ スポーツ団体×2 ・ 子育て支援団体 ・ 若者の社会的擁護団体 ・ コミュニティ・カフェ ・ 原発避難者サポート団体 ・ 図書館運営団体 ・ 農業を通じた国際 NGO ・ 市民活動サポート団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジいばらき県民運動及びつくば市から業務を受託し、茨城県域及びつくば市の市民、団体を対象とした新たな市民活動に関する無料相談業務が始まりました。それぞれ 12 月、1 月から、毎月 1 日（3 枠及び 2 枠の相談枠）、オンライン相談も含めた相談対応を行いました。 ・ 活動財源の確保や助成金の探し方、市民活動に関する会計や税金の仕組み、最適な非営利法人格、最適な広報手段、役員報酬のルール、代表と NPO 法人との利益相反契約、法人登記方法、子ども食堂などの運営方法や保健所対応など、相談内容も多岐に渡りました。 	<p>同協議会事務局として、以下の活動を実施しました。</p> <p>① NPO 会計オンライン・セミナー 2020 年度に引き続き、各回 100 名以上が参加する同セミナーを 4 回シリーズで実施しました。</p> <p>② NPO 会計サポート・コミュニティ NPO に対する会計サポートを行う支援者同士の交流の機会を隔月でオンライン開催しました。あまり専門的ではない会計相談に関する素朴な疑問、答えに迷った事例、よくある相談事例の共有の他、電子帳簿保存法施行に伴う具体的な対応方法、「NPO 法人会計力検定」で間違いの多い問題の共有、インボイス制度への対応などを協議し、支援者同士のつながりが深まりました。</p> <p>③ 「受取寄付金の対価性に関する意識調査報告書」読み合わせ会 同調査の背景、内容、結果などを解説しながら、寄付の対価性に関する問題点を解説しつつ、今後どのように対応すべきか参加者と協議しました。</p>
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を支える基盤である会計事務の基礎を個別に伝えることができ、NPO 法人会計基準の普及と、ガバナンス意識の向上につなげることができました。 ・ NPO 法人会計基準に準拠した会計ソフトを多くの団体に販売することで、明朗な決算、情報開示につながりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コモنزの有料相談だけではアウトリーチしきれない層に、相談対応を行うことができました。 ・ 相談件数が飛躍的に増加しました。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 多くの市民活動団体に参加いただき、NPO 法人会計基準の理解を深めることができました。 ② 会計支援者の新たなつながりが生まれ、気軽に相談し合える関係性の促進につながりました。 ③ 受取寄付金の対価性に関する問題点や今後の方向性が定まりました。
今後の課題	会計サポートを無理なく実施するために、対応できる会計サポーターや職員の育成を継続的、計画的に進めること。	相談枠を着実に埋めるため、コモنزとしても積極的に広報を行うこと。	<ol style="list-style-type: none"> ① 講師の新たな担い手を開拓する必要があります。 ② 無理なく継続的にコミュニティを維持する必要があります。 ③ 内閣府に対するロビイングを着実に実施すること。

部門名	活動資源の仲介部門						
2021年度の活動方針	セーフティネットの維持・拡充を目的とした寄付募集及び助成事業を実施することで、コロナ禍で地域のセーフティネットを支えるNPOの存在の可視化と、寄付を通じた市民参加につなげる。						
事業名	誰かのために募金 ～コロナ禍で生活困難な茨城県民を支える活動を応援～		花王・ハートポケット倶楽部地域助成 ～地域の居場所の継続・発信助成～		守谷市内の市民活動助成基金の創設サポート		
取り組んだ地域の課題や社会的背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍が長期化する中、生活困難な市民を支えてきたNPOなどによるセーフティネットに対し、これまで以上にその役割が期待されています。 ・ このような状況の中、地域のために何か行動を起こしたいと、企業も含め、新たな公益的活動も生まれてきています。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で、福祉的な地域の居場所は、これまで以上に必要とされています。 ・ 居場所に来ている人のつながりをオンラインで維持しようとしたり、県外の先進事例とつながる動きもあります。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 同市では「市民公益活動助成金交付制度」があるが、これまで十分活用され、その目的達成につながってきたとは言えない状況です。協働事業提案制度や市民活動補助制度を設ける県内自治体も多くありますが、同様の状況にあります。 ・ 同市直営で実施されてきた助成制度が、新たに設立する民間団体を通じて助成されることとなりました。 		
実施内容	47都道府県「新型コロナウイルス対策」地元基金からの寄付金を一部活用しながら、「誰かのために募金」の寄付募集を継続実施し、以下の助成を実施しました。			花王・ハートポケット倶楽部の皆様のご寄付を原資に、以下の活動に助成を実施しました。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 守谷市在住の大野常務理事・事務局長により、(仮称)守谷市公益活動促進協会設立準備会に委員として参画し、あるべき助成の在り方に関して継続的な助言を行いました。また規約案、募集要項や申請書式の原案などを作成しました。 ・ もりや公益活動促進協会が創設され、同協会を通じて「もりや公益活動助成金」制度が開始されました。大野は助成選考委員として継続的に関わるこ
	団体名	活動概要	助成金額	団体名	活動名	助成金額	
	認定NPO法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい	児童施設などから巣立った若者に対する食料支援を通じた見守り活動	100,000円	NPO法人 ソワンアンドソワレ	介護があっても働く喜びを。ケアラーの生きがい支援事業	250,000円	
	NPO法人 あっとホーム たかまつ	ひとり親や独居高齢者を対象とした食料支援	200,000円	フリースクールつくば空	不登校の子ども達にも様々な体験を	250,000円	
	NPO法人 いろどり	障がい者による布ナプキン製作と、生活困窮者などへの配布	200,000円	フリースクールつくば空	不登校の子ども達にも様々な体験を	250,000円	
しもつま外	外国ルーツの住	200,000					

	<p>国人支援ネットワーク TOMODACHI I</p> <p>民に対する相談対応及び食を通じた居場所づくりなど</p> <p>円</p>				<p>ととなりました。</p>
<p>得られた成果</p>	<p>コロナ禍で生活困難な県民に対し、主に物資配布を中心とした見守り・交流活動を実現、継続しました。</p>	<p>花王社員も含め、福祉の居場所の価値を発信することにつなげました。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 助成制度創設過程で中心的な役割を果たすことができました。 ・ 公益活動助成に課題を抱える自治体に対し、一つのモデルケースを生み出すことができました。
<p>今後の課題</p>	<p>コロナ禍が長期化する中、課題が見えにくくなったり、関心が及びにくくなっています。継続的な寄付募集、助成の実施が必要です。</p>	<p>助成効果をさらに高めるため、様々なかたちで伴走的運営サポートを実施すること。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 同助成がしっかり活用されるよう、様々な助言、提言を行うこと。 ・ 他の自治体に対するモデル提示をすること。



あっとホームたかまつによる弁当配布



いろどりによる布ナプキン配布



花王助成金贈呈式



フリースクールつくば空によるポニーを通じた交流

会務に関する報告

種類	回	日時	場所	出席者数	議決事項
通常総会		5月23日 (日) 午後1時～5時	えんがわハウス	113名(会場出席者11名、オンライン出席者15名、表決委任者54名、書面表決者33名)	1. 2020年度事業報告の承認を求める件 2. 2020年度活動決算の承認を求める件 3. 2021年度事業計画(案)の承認を求める件 4. 2021年度役員報酬(案)の承認を求める件 5. 2021年度活動予算(案)の承認を求める件 6. 役員を選任並びに承認を求める件
理事会	1	4月25日 (日)	コモンズ大工町事務所前の共有スペース	6名(会場出席者3名、オンライン出席者3名)	1. 総会議案書の協議
	2	7月1日(木)		7名(電磁的方法による表決者7名)	1. 代表理事及び常務理事選定の件
	3	8月5日(木) 午後2時半～5時		7名(会場出席者4名、オンライン出席者3名)	1. 事業の進捗状況の報告 2. 財務状況の報告 3. 各種規程案の審議
	4	9月28日 (火) 午後2時半～5時		6名(会場出席者3名、オンライン出席者3名)	1. 事業の進捗状況の報告 2. 財務状況の報告 3. 長期借入金の是非 4. 各種規程案の審議 5. 就業規則及び賃金規程改定案の審議 6. テレワーク実施要領の審議
	5	10月15日 (金) 午後5時～7時半		7名(会場出席者4名、オンライン出席者3名)	1. 資金繰り改善策の協議 2. 日本政策金融公庫への融資申請の是非の審議
	6	11月30日 (火) 午後2時半～5時		7名(会場出席者4名、オンライン出席者3名)	1. 事業進捗状況の報告 2. 財務状況の報告 3. 賞与支払いの審議 4. 水戸事務所の拡充の審議 5. 水戸事務所の各事業の継続の審議
	7	1月31日 (月) 午後2時半～5時		7名(会場出席者4名、オンライン出席者3名)	1. 各種規程案の審議
	8	3月28日 (月) 午後2時半～5時		6名(会場出席者3名、オンライン出席者3名)	1. 事業進捗状況の報告 2. 財務状況の報告 3. 2022年度事業計画(案)の協議 4. 2022年度活動予算(案)の協議

会員数内訳

	2018年度				2019年度				2020年度				2021年度			
	個人	団体	合計	前年比												
正会員	105	89	194	+11	111	89	200	+6	84	69	153	-47	96	73	169	16
賛助会員	13	8	21	0	12	8	20	-1	13	5	18	-2	14	6	20	2
購読会員	6	1	7	-1	6	1	7	0	1	2	3	-4	1	2	3	0
合計	124	98	222	+10	129	98	227	+5	98	76	174	-53	111	81	192	18

※ 2020年度に会費未納の会員の退会処理を厳密に実施したため、会員数が大きく減少しています。

団体正会員（順不同・敬称略）

認定 NPO 法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい
認定 NPO 法人 市民活動センター神戸
認定 NPO 法人 リヴォルヴ学校教育研究所
NPO 法人 アート・エコクラブ
NPO 法人 あすかユーアイネット
NPO 法人 あすなろ会
NPO 法人 あゆみ
NPO 法人 茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会
NPO 法人 茨城県精神障害地域ケア一研究会
NPO 法人 茨城自立支援センター
NPO 法人 ウィラブ北茨城
NPO 法人 うしく里山の会
NPO 法人 エコ・グリーンいばらき
NPO 法人 おおぞら
NPO 法人 オンリーワン
NPO 法人 かしま楽園倶楽部
NPO 法人 くらし協同館なかよし
NPO 法人 こが里山を守る会
NPO 法人 古河市障害児（者）支援の会 希望
NPO 法人 子どもの造形美術と学びを考える会
NPO 法人 子ども食堂れん
NPO 法人 災害ボランティアネット
NPO 法人 里山再生と食の安全を

考える会
NPO 法人 自然生クラブ
NPO 法人 穴塚の自然と歴史の会
NPO 法人 消費者サポートいばらき
NPO 法人 生活支援ネットワーク・介護セブン
NPO 法人 生活支援ネットワークこもれび
NPO 法人 セカンドリーグ茨城
NPO 法人 たすけあいネット民の会
NPO 法人 たんたん
NPO 法人 ちいきの学校
NPO 法人 とりで西部ふれあいクラブ
NPO 法人 なごみ
NPO 法人 行方市スポーツ協会
NPO 法人 なめがたふれあいスポーツクラブ
NPO 法人 ナルク水戸
NPO 法人 認知症介護家族の会うさぎ
NPO 法人 発達支援グループ風の子
NPO 法人 はつらつ会
NPO 法人 ビスターリさとみ会
NPO 法人 ひたち親子の広場
NPO 法人 ひまわり
NPO 法人 ふくろう
NPO 法人 ふれあい
NPO 法人 ふれあい坂下
NPO 法人 ベル・サポート境
NPO 法人 まちづくり市民会議

NPO 法人 ままとーん
NPO 法人 水戸に精神障害者のくらしを作る会 おらい水戸
NPO 法人 未来ネットワークひたちなか・ま
NPO 法人 村松学童クラブ育成会
NPO 法人 ユーアンドアイ
NPO 法人 よつ葉ナーサリー
NPO 法人 らぼーる朋
NPO 法人 リーブルの会
NPO 法人 れいめい
NPO 法人 kosodate はぐはぐ
NPO 法人 M・I・T・O21
一般社団法人 茨城県経営者協会
一般社団法人 ふうあいねっと
一般社団法人 Burano
社会福祉法人 ユーアイ村
みなとメディアミュージアム実行委員会
NPO 環〜WA
茨城県生活協同組合連合会
いばらきコープ 生活協同組合
生活協同組合 パルシステム茨城 栃木
日本労働組合総連合会 茨城県連合会
中央労働金庫
勝田パークボウル（第一観光開発株式会社）
株式会社 ARC 地域研究センター
富澤 剛

団体賛助会員（順不同・敬称略）

NPO 法人 市民支援センターともべ
NPO 法人 ニューライフカシマ21
NPO 法人 つくばアーバンガーデニング
NPO 法人 取手市手をつなぐ育成会

NPO 法人 ふれあい潮来
株式会社 ソノリテ

団体購読会員（順不同・敬称略）

NPO 法人 かしま遊休地活用クラブ NPO 法人 つくば環境フォーラム

※ 個人情報保護を考慮し、個人会員の名称の掲載を控えます。

団体からの助成金及びご寄付（順不同・敬称略）

公益財団法人 日本財団	NPO 法人 エイエスピー	パルシステム共済生活協同組合連合会
公益財団法人 ベネッセこども基金	NPO 法人 サラダボール	茨城県生活協同組合連合会
一般財団法人 茨城県労働者福祉基金協会	花王 株式会社	生活協同組合パルシステム茨城 栃木
一般財団法人 全国学生保障援助会	ジブラルタ生命保険 株式会社	よつ葉生活協同組合
一般社団法人 茨城県経営者協会	積水化成品工業 株式会社	茨城県学校教職員組合
一般社団法人 生命保険協会 茨城県協会	株式会社 筑波銀行	宗教法人 真如苑
社会福祉法人 中央共同募金会	合同会社 市民ソーラー産直ネット	ジャパン・ソサエティー
社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会	いばらき・県南筑波	チャレンジいばらき県民運動
認定 NPO 法人 日本都市計画家協会	水海道ロータリークラブ	茨城県
認定 NPO 法人 日本 NPO センター	SOMPO ちきゅう倶楽部	

※ 個人情報保護を考慮し、個人寄付者の名称の掲載を控えます。

ご支援、誠にありがとうございました。2022 年度も引き続きご支援お願いします。